

濤沸湖で確認された標識オオハクチョウについて (1981~82年冬期)

玉 田 誠*

Resighting Records of the Marked Whooper Swans in Lake Tofutsu in the Winter of 1981-82

Makoto Tamada *

Summary: Thirty-one Whooper Swans *Cygnus cygnus* (18.02 %) out of 172 collar marked swans were observed in Lake Tofutsu as shown in Table 1. A lot of collar swans in Lake Tofutsu, marked in various localities were also reported in this paper.

1. 濤沸湖でのリサイト

濤沸湖(トウフツコ)で1981年期(1982年5月まで)に確認(resight・リサイト)された首環標識オオハクチョウは表1に示され、1981年までに日本で着標された通算172羽の18.02パーセントに達する。このうち尾岱沼(オダイトウ)での着標鳥に関係するものを除くと、その確認率は32.94パーセントにはねあがる。表1のうち、濤沸湖で着標されたものは繁殖地との間を一往復してからのもののみであり、他の着標地からのものはそのまま記載した。また濤沸湖に飛来したすべての着標鳥を確認したとは言えないが、ここ数年来、秋11月初旬(濤沸湖は未結氷)にも給餌地点に寄りつくようになったため、飛来したものの確認率はかなり高いと考えられる。1980年12月11日の濤沸湖の様子を図1に示す。

濤沸湖で確認された標識鳥を着標地別に分類すると表2のようになる。この表で見るとかぎり小湊、ウトナイ湖および濤沸湖での着標鳥の確認率はかなり高い値を示しているにもかかわらず、尾岱沼からのそれは極めて低いことがわかる。尾岱沼で標識された3羽は、厳冬期に濤沸湖から尾岱沼に移動していて着標されたことも考えられる。尾岱沼で越冬するオオハクチョウは濤沸湖を経由するものは少なく、ダイレクトにサハリンとの間を往来するか、千島列島を経由して渡るのではないかと(犬飼)と思われる。なお、IC 96の濤沸湖でのリサイトは着標した年の6月14日であって迷鳥的リサイトである。

表 1. 濤沸湖で確認された首環標識オオハクチョウ.

Table 1. Resighting swans in Lake Tofutsu.

首環標識 marking	年齢 Age	性 Sex	着 標 標 Marking		濤沸湖での確認日 Resighting											
			着 標 地 Localities	年 月 日 Date	76	77	77	78	78	79	79	80	80	81	81	82
					秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春
1C02	A		濤沸湖	1976,Mar.15					○							
1C11	J		濤沸湖	Mar.15	◎	◎	◎	◎								
1C15	J		小湊	Mar.18	◎											
1C20	A	♂	小湊	1977,Feb.12				○								
1C22	A	♀	小湊	Feb.13		◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	
1C27	A	♂	小湊	Feb.13		◎	◎									
1C28	A	♀	小湊	Feb.13					○							
1C44	A	♂	小湊	1978,Mar.8					○							
1C52			小湊	Mar.9						○						
1C54	A	♀	小湊	Mar.9											◎	
1C56	A	♀	小湊	Mar.9				◎	◎							
1C60	A	♀	ウトナイ湖	Mar.11					○							
1C71	A	♂	尾岱沼	Mar.15									○			
1C92	J		小湊	1979,Feb.17						○						
1C96	J	♀	尾岱沼	Mar.8												○ (14 June 79のみ)
2C01	J	♂	小湊	1980,Feb.16												○
2C05	J	♂?	小湊	Feb.16												○
2C06	J	♂?	小湊	Feb.16												○ (10 Nov 80死亡)
2C07	J	♂	小湊	Feb.16												○ (18 Dec 80死亡)
2C12	A	♂	小湊	Feb.16											○	◎
2C15	A	♀?	小湊	Feb.16										◎		◎
2C17	J	♂	ウトナイ湖	Feb.20											○	
2C21	A	♀	ウトナイ湖	Feb.20											○	
2C30	S	♀	尾岱沼	Feb.25											○	
2C46	S	♂	濤沸湖	Feb.28											◎	◎
2C51	A	♀	小湊	1981,Feb.14												○
2C52	A	♀	小湊	Feb.14												○
2C54	J	u	小湊	Feb.15												◎
2C60	A	♂	小湊	Feb.15												○
2C19	J	♀	ウトナイ湖	Mar.6												○
2C79	S	u	濤沸湖	Apr.8												○

(注) 年 令 A:成鳥、 S:2年目、 J:幼鳥(1年目)

性 u:不明

確認日 秋:10~12月、 春:1月~5月(1C96は6月)

◎:1ヶ月前後、 ○:10日前後、 ○:1ヶ数日間

J:Juvenile, A:Adult, X:died, S:Second year, u:Sex unknown

ar
ar
a-

れ
8.
、
と
湖
(氷)

小湊、
尾岱沼
沼に
する
か
迷鳥

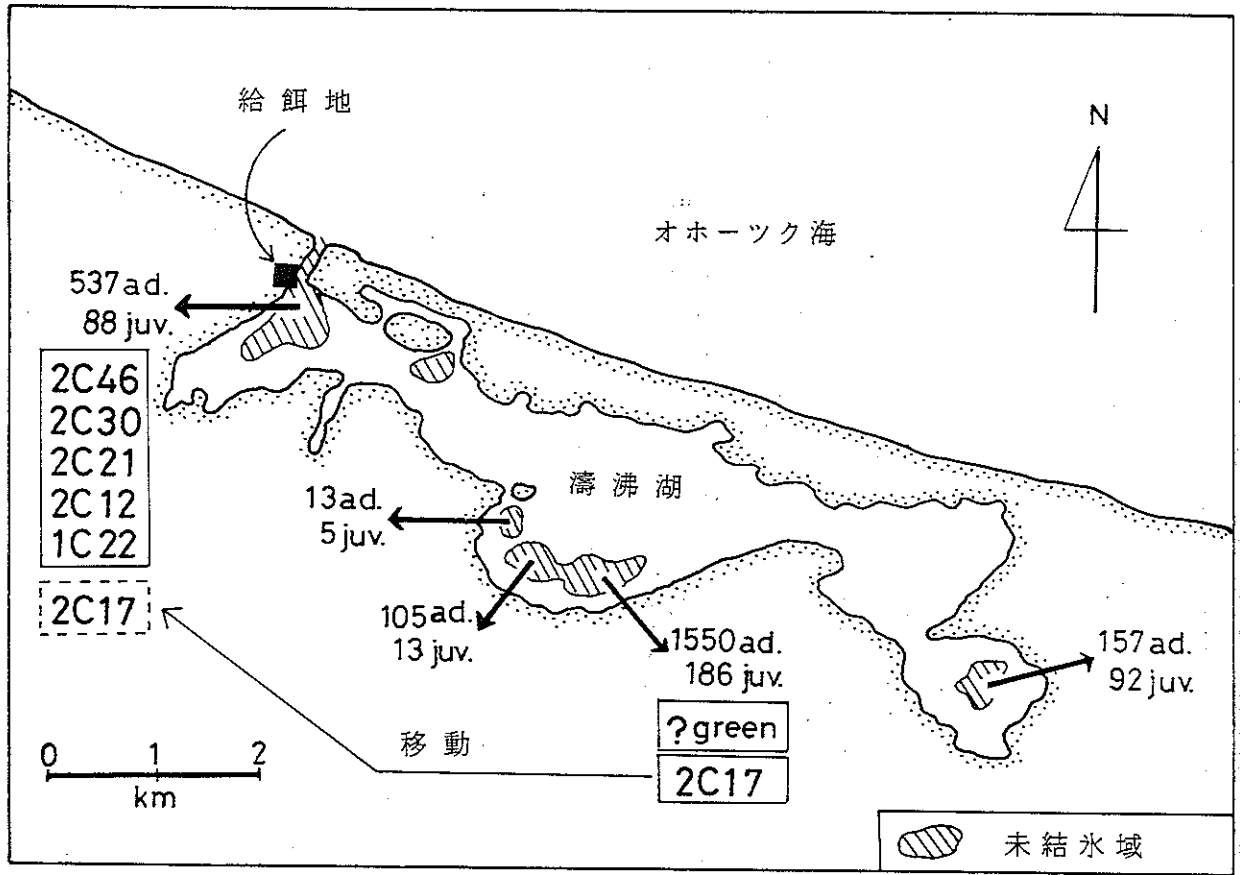


図1. 濤沸湖でのオオハクチョウの観察例.

調査日時：1980年12月11日13時20分～15時10分、調査者：更科智司・玉田誠、数字：オオハクチョウ個体数、ad.：成鳥、juv.：幼鳥、 ：首環標識番号、?：標識番号不明

Fig.1. Numbers and marked swans at Lake Tofutsu in Dec.11,1980.

表2. 濤沸湖での着標別確認数.

Table 2. Resighting swans in Lake Tofutsu, captured and marked in various localities.

着標地 localities	着標数 no.of marked swans	濤沸湖での 確認数 no.of resighting	確認数 着標数 × 100 %
濤沸湖	8	4	50.0
尾岱湖	87	3	3.5
ウトナイ湖	10	4	40.0
小湊	63	20	31.8
その他	4	0	0
計	172	31	18.0
尾岱沼を 除く計	85	28	32.9

2. 小・から 濤沸湖へ

小湊で着標され、移動の途中他の渡来地で確認されることなく濤沸湖で確認された標識鳥をリストアップしたのが表3である。この表で見ると濤沸湖と小湊の間を1C15、1C20、1C22、

表3. 小湊で着標され濤沸湖で確認されたオオハクチョウ。

Table 3. Resighting swans in Lake Tofutsu, captured and marked in the Kominato Bay.

標識 Marking	年齢 Age	性 Sex	着標年月日 Marked in	小湊 Kominato	濤沸湖 Lake Tofutsu	小湊 Kominato
1C15	J		77,Mar.18		76,Dec.20 →	76,Dec.27
1C20	A	♂	77,Feb.12		77,Oct.22 →	77,Oct.25
1C22	A	♀	77,Feb.13		77,Dec.24 →	77,Dec.29
"	"	"	"	78,	→ 78,Mar.25	
1C27	A	♂	77,Feb.13	77,Mar.1 →	77,Mar.14	
1C52			78,Mar.9	78,Mar.9 →	78,Apr.16	
1C54	A	♀	78,Mar.9	80,Feb.16 →	80,Mar.20	
1C56	A	♀	78,Mar.9	78,Mar.29 →	78,Apr.1	
"	"	"	"	78,Dec.7 →	78,Dec.10	
1C92	J		79,Feb.17	79,Apr.3 →	79,Apr.22	
2C01	J	♂	80,Feb.16	80,Feb.28 →	80,Apr.24	
2C06	J	♂?	80,Feb.16	80,Feb.29 →	80,Apr.24	
2C07	J	♂	80,Feb.16	80,Feb.28 →	80,Apr.24	
2C12	A	♂	80,Feb.16		80,Dec.10 →	80,Dec.18
2C15	A	♀?	80,Feb.16	80,Mar.14 →	80,Mar.18	
"	"	"	"	81,Feb.16 →	81,Mar.21	
"	"	"	"		81,Dec.16 →	81,Dec.25
"	"	"	"	82,Mar.11 →	82,Apr.1	
2C51	A	♀	81,Feb.14		81,Oct.26 →	82,Feb.5
2C52	A	♀	81,Feb.14		81,Nov.28 →	81,Dec.16
2C54	J	u	81,Feb.15	81,Feb.16 →	81,Mar.20	
2C60	A	♂	81,Feb.15	81,Feb.15 →	81,Apr.8	
"	"	"	"		81,Dec.4 →	81,Dec.13

1C52、1C54、1C56、および2C15、が1週間以内で移動し、特に1C56は中2日しかおいていない。このことは特に注目する必要がある。他の標識鳥については小湊と濤沸湖もしくはそのどちらかでの確認もれの公算が大きように思われる。

3. ウトナイ湖から 濤沸湖へ

ウトナイ湖で着標され濤沸湖でリサイトされたものについて表4に示す。両湖の間をダイレクト

に飛行したと思えるのは2 C19の瀋沸湖からウトナイ湖へのただ1例だけである。しかし、両湖における標識鳥のチェックが完全に毎朝夕に行なわれたわけではなく、また3月下旬は時期的に他の湖沼川も利用できる状態でもあるので、中継地があるのかどうかわからない。

表4. ウトナイ湖で着標され瀋沸湖で確認されたオオハクチョウ。

Table 4. Resighting swans in Lake Tofutsu, captured and marked in Lake Utonai.

標識 Marking	年齢 Age	性 Sex	着標年月日 marking	ウトナイ湖 in L.Utonai	瀋沸湖 L.Tofutsu	ウトナイ湖 L.Utonai
1 C 60	A	♀	1980 Mar 11		78 Dec 7 →	78 Dec 10
2 C 17	J	♂	1980 Feb 20		80 Dec 11 →	80 Dec 26
2 C 19	J	♀	1980 Feb 20	81 Mar 6 →	81 Mar 21 →	81 Mar 22
2 C 21	A	♀	1980 Feb 20		80 Dec 11 →	80 Dec 26

4. 尾岱沼から瀋沸湖へ

尾岱沼で着標され瀋沸湖でリサイトされた3羽について表5として示す。厳冬期にハクチョウ達が飛来し群生するところは尾岱沼の市街地の南5 km程の春別川の河口付近である(第2図)。一方、秋の渡りの季節に群生するのは野付湾の北部域や野付半島の湾側であって、春にもここが利用されている。尾岱沼(春別川河口)における10月~1月の標識鳥の確認記録が皆無に近いのはこうした事情によるものである。

尾岱沼で1980年2月25日に着標された2 C 29が、同年の秋11月16日に尾岱沼でリサイトされた(新田)ことになっているが、この時期に尾岱沼(春別川河口付近)にはハクチョウ類は生息せず、実際は野付半島の付根付近で発見されたものである。この近くでは、番号の読みとれなかった緑の首環標識オオハクチョウ2羽もリサイト(更科)されている。

表5. 尾岱沼で着標され瀋沸湖で確認されたオオハクチョウ。

Table 5. Resighting swans in Lake Tofutsu, captured and marked in Notsuke Bay.

標識 Marking	年齢 Age	性 Sex	着標年月日 Marking	尾岱湖 in Notsuke Bay	瀋沸湖 L.Tofutsu	尾岱沼 Notsuke Bay
1 C 7 1	A	♂	1978 Mar 15		79 Nov 9 →	80 Feb 10
1 C 9 6	J	♀	1979 Mar 8	79 Mar 16 →	79 Jue 14	
2 C 3 0	S	♀	1980 Feb 25		80 Dec 12 →	*80 Dec 18 屈斜路湖

注 * 屈斜路湖で確認された後、最上川に移動(80 Jan 4~Mar 12)している。

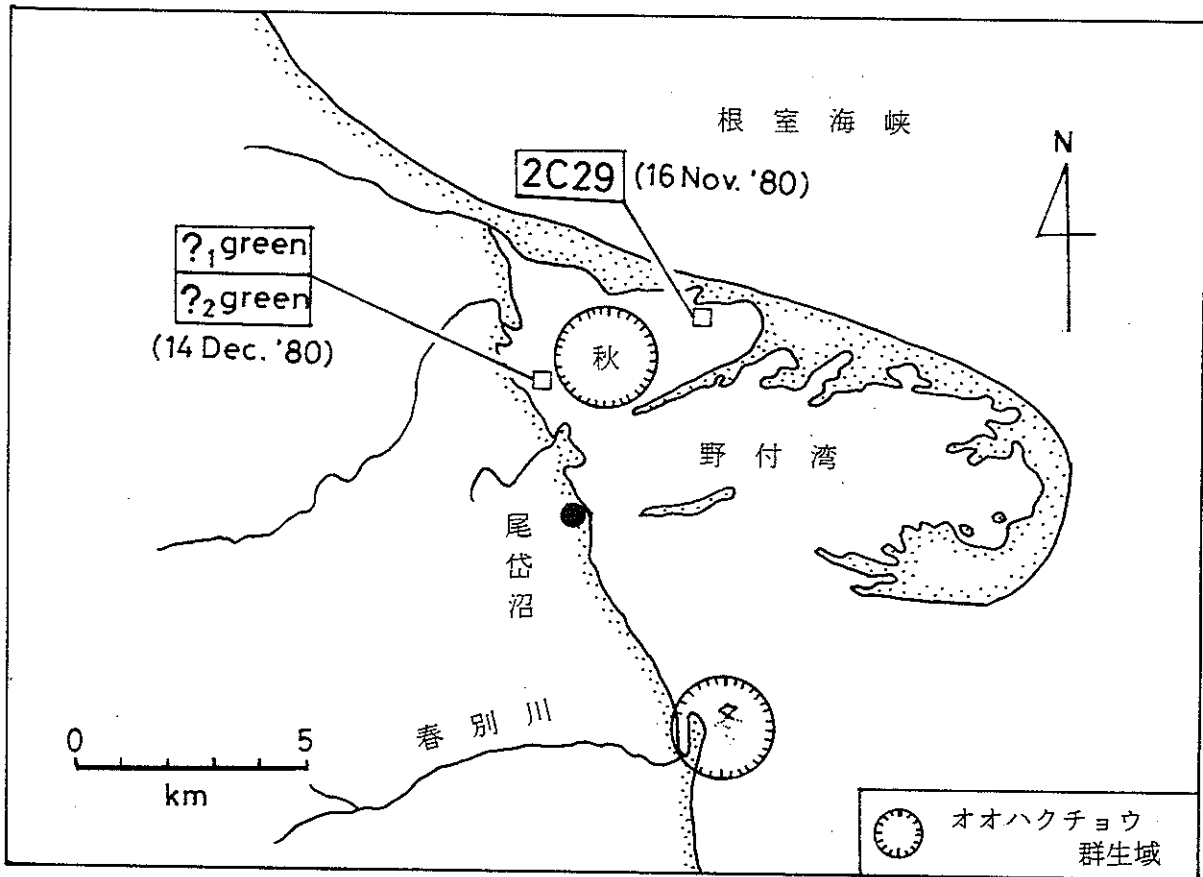


図2. 尾岱沼・野付湾付近の概略図。

□: 首環標識番号、?: 標識番号不明、冬: 厳冬期のオオハクチョウの群生域であって標識鳥捕獲域である。

Fig.2. An outline of the Notsuke Bay.